

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成27年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouvoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングには中庭や周りの様子見える大きな窓があり日当たりもよく、四季の移りかわりを感じる事ができます。近隣の方なども気軽に立ち寄って下さったりと、地域の方々ともかかわりもちつつゆったりとした環境のもと生活して頂けるように努めています。又、ホーム周辺や広い中庭へは自由に出入り可能であり開放的に過ごしていただいております。利用者様個々に応じた支援ができる様、日々のコミュニケーションを通してその方のニーズに応じた対応ができるよう利用者様との時間を共有し一瞬一瞬を大切に支援させて頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高梁市市街地の近隣が見渡せるロケーションの中に事業所は位置している。「いつも笑顔で個々を尊重し、寄り添う介護」を目指し、ミーティングを利用して実践に繋がる対応について話し合い、いつでも意識出来る様努めている。日中は、リビングでゲーム等を行い職員と一緒に楽しみ、至るところで笑顔が見られる。居室にて趣味の「刺し子や俳句」に興じる入居者もあり、その人らしさを尊重した生活支援を実践している。敷地内には広い中庭があり、芝生を植えベンチを配置し、イベント会場として夕涼み会等、有効利用している。新しくピザ窯を設置して、祭りのメニューが増え、近隣の人や家族等、参加する人々により豊かなもてなしを提供し、交流を深めている。新設から三年目となり前向きに取り組んでいる事業所として更なる発展を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	ennjilyou	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの目が届く所へ掲示し、理念を常に確認できるようにしている。又、理念を念頭に置き実践につながるよう意識して取り組んでいる。	理念を目につく場所に掲示したり、ミーティング時に話をして意識付けを図り、実践に繋がるように努めている。対応時、傾聴姿勢を持って入居者の思いを汲み取るように心掛け、理念の通り個人を尊重している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への行事に参加したり、ホームでの行事等への参加して頂いたりとそれ以外にも日頃から意識し交流を図っている。	地域の音楽会や病院の夏祭り等の行事に参加したり、事業所の夕涼み会に家族・近隣の方を招き、中庭で焼き立てのピザなど食し交流している。大学生のボランティアの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は活かせていない今後地域に向けて活かす必要あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告等行い、情報交換や意見を聞きサービス向上に努力している。	年6回、市福祉保健課や近隣の方等が参加し、法人三事業所合同で運営推進会議を開催している。事業所の状況や行事活動報告、入退所状況、ヒヤリハットなどを話し合い、意見を聴いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡をとり協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議に参加の際、事業所からは各種報告を行い、行政からはマイナンバーの説明や制度についての伝達、季節毎の感染症に対する対策の指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠など行わず環境面・身体面での拘束につながらないよう十分に注意しケアに努めている。	身体拘束に関する具体的な行為を理解しており、施錠や身体を拘束する行為は見られない。日中ゲームや趣味の刺し子・俳句などをし、平穩に自分の時間を過ごしている。中庭や畑にはいつでも自由に出入り出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について自身で学習や研修を通じて正しい知識を学び、気持ちにゆとりをもち困難な事は抱え込まず職員で話し合い虐待に該当する行為のないよう注意防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ場所はあるがそれを活用し支援までにはつながっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	学ぶ機会はあるが、それらを活用した支援までではできていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などは運営に反映されているが、外部へ表せれる機会は設けられていない。	入居契約時、本人・家族に重要事項を説明し意見を聴いている。広報誌「そよかせ」を発行し、行事活動の様子を掲載して意見を聴く機会を設けている。行事にも参加を促し、事業所の様子を確認してもらう。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする場を設け、意見等反映されている。	日常的に職員同志、業務の中で話し合いが出来ている。月1回のミーティングにて広報、感染症、環境整備、ヒヤリハットについて専門性を持って話し合える様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を把握し、反映されている。また職場環境や条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修に参加し、日々働きながらトレーニング出来るように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人単位で関係作りや勉強会が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が抱えている思いや意向を傾聴し、丁寧な対応を心掛け信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりお話をお聞きし御家族の抱えている思いや不安、意向に対し対応し安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に応じた支援であるか見極めた上で支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者という立場を前に出すのではなく、同じ目線又は沢山の事を学ばせて頂いている気持ちを持ち、利用者様には出来る事はつけて頂けるよう共に支えあい過ごせる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報の共有や意向を聞きながら協力を得て本人様のへの支援が御家族様職員とご一緒にできる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の今までの交友関係をホームにいられてからも出来るだけ変わらないお付き合いができる様、可能な範囲で面会等のお手伝いをさせて頂いている。	家族とゆっくり過ごせる様、帰省(正月、盆、ゴールデンウィーク等)を勧めている。師弟関係にある知人の面会を快く迎え、交友を楽しんでもらう。柚子、柿等の差し入れがあり、地域の方と馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立やトラブルのないように利用者様個々の性格や個性を知り利用者様同士での解決が困難な場合など必要時に間に入り緩和したりし互いに生活する同士自然と気遣いあって頂けるような空気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の相談に対しても必要に応じてフォロー支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向や希望は把握し対応している、日々の関わりから見えて来るもの大切に検討している又自己判断困難な場合はその方の立場になり判断している。	日々コミュニケーションを深め、暮らし方や思いを聴いている。本人、家族、生活歴、職員からの情報や情報提供書等を勘案して意向に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話しを伺ったり情報提供書等からも情報を照らし合わせ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションを通じたり記録や他スタッフとの情報交換を行い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、関係者との話し合いを行い意見を反映した介護計画の作成に可能な範囲で作成しているが、すべての方へ完全にはいえない。	穏やかな生活獲得に向けての介護計画となっている。日々の状態チェック表にて評価をし、状態の変化を職員から聞き取り、計画の見直しに繋げている。	本人・家族の意向が記載され、要望として計画に反映される事やモニタリングの検討を記録する事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等に対しては記録だけでなくその時々や、業務の間をみて職員同士情報の共有や意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じたニーズに対応ができる様固定観念を捨て柔軟な気持ちで対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向の元かかりつけ医を選択して頂き、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療が受けれる様支援している。	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診出来る様支援し、往診する協力医と連携を図っている。訪問看護師により異常の早期発見に努め、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時情報交換に努め、きずきや疑問に感じる点については相談し利用者様が適切な受診を受けて頂けるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そういった場合に備えた関係づくりはできていないが、情報交換等には努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での出来る事を十分に説明し本人・家族の方針を共有し、かかりつけ医の協力も得ながら他職種連携で支援に努めている。	看取りの方針については契約時に説明をしている。終末期に入れば医師から家族へ説明があり、指示にて病院へ搬送している。現在、看取りはしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会も法人単位で定期的に行ったり、日々緊急時マニュアル等に職員個々に目を通し理解に努め実践時落ち着いた行動ができる様実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員がみにつけている。地域との協力体制は完全ではない為今後の課題となる。	年2回、避難訓練を消防計画に基づき実施している。消防隊員が近隣に在住し、火災時の連絡網に入っている。避難場所は火元により数か所確認している。	火災時に近隣との協力体制は必要不可欠なものと思われるので、相互の協力体制が築かれる事に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者との空間と区別を行い個人の一人に慣れる空間を設け、共同生活の中にも個々にプライバシーを保持できるよう、共同で使用する箇所に対しては声掛けに十分配慮しや目隠しになるカーテンなどを設置している。(トイレ・入浴・居室)	散髪や化粧などの自己選択や決定を支持し、その人らしく暮らせる様支援している。誇りやプライバシーを損ねない様な声掛けをしていた。入居者の自主性を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は本人様に決めてもらえるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせたその時その時の対応を行っており、職員が利用者様の生活リズムに沿って行動できる様尊重した介護に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時は本人の希望を聞きカット利用される、お化粧等したいときにしていただきその方らしい整容整髪ですごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを利用者さんと考えたり参加できる方は調理作業や盛り付け、配膳かたづけなどを自発的にお手伝いして下さり共に行動している。食事が楽しい時間になるように心がけている。	地産地消を心掛けている。近隣から柚子・柿の差し入れがあり、利用者と一緒に加工している。畑で採れた野菜を献立に取り入れ、旬の味を楽しんでいる。自発的に調理や盛り付けが出来る様支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての方に対する栄養バランスや水分摂取量に注意したり、個別にも病状等により異なる食事水分摂取量の配慮に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い毎食後口腔ケアをしていただいている。又口臭や口腔内トラブルがないかも定期的に確認し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し本人で困難な所のみお手伝いをさせて頂く。最後まで自分の力で排泄できる様、過剰な介助にならない様をつけている。	排泄はトイレを心掛け、排泄パターンに基づく誘導や、本人の残存機能を活かした自立支援に努めている。水分補給、運動、乳製品摂取等の工夫により体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や運動を通じて腸の動きを刺激し自然な排便を促されるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望のタイミングで曜日や日にちを決めることなく、入りたいときに入って頂く。又、入浴のお誘いも同意のもと入って頂いている。	本人の意向を確認し、入浴の誘導をしている。要望を大切にし、夜間入浴も可能となっている。冬至に柚子湯、変わり湯としてバラの花湯を楽しむ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の好きな時に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルにまとめいつでも確認できるようにしている。また薬の効能副作用等も理解し内服後の状態変化にも十分注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や外への散歩、外出その方その方の得意とされる趣味裁縫などをして気分転換や余暇の充実をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は自由にさせていただいている。又希望を聞きながら普段と異なる所へ出掛けたり、家族や地域の協力を得れる時はお願いしている。	敷地内の園庭に外気浴、夕涼み会や食事会等のイベントを楽しむ。総社の園芸店やスーパーへ買い物に行ったり、とっとり花回廊や与島へ遠足に出掛けている。近隣へ花見や散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては所持されておられ、購入したいものがあれば希望をお聞きし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は使用して頂いたり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔保持に努めている。また室内の環境整備へも配慮し四季の花を活けたり、家庭らしい落ち着いてすごせる空気感を大切にしている。又湿度温度共に適温で過ごしていただけるよう随時確認している。	環境を整え、テレビを観たりゲームに興じて和気あいあいと過ごしている。クリスマスツリー等季節の物品を飾り、四季を感じてもらう。広い中庭を整備して家族や近隣の方と多人数で食事やお茶等を楽しめる様工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の位置や椅子の向き一つに対しても共同空間の中で、一息つける個人のスペースの確保や他者と関われる居場所作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物をお部屋に置いたり、その方その方が居心地の良く過ごしていただけるよう工夫している。	毎朝、利用者と一緒に居室を掃除し清潔を保っている。洗面台が設置され、口腔ケアや洗面等、プライバシー面で配慮されている。居心地良く過ごせる様テレビや時計等自分の必要な物を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力を見極め、出来る事はしていただきながら安全に自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成27年11月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングには中庭や周りの様子見える大きな窓があり日当たりもよく、四季の移りかわりを感じる事ができます。近隣の方なども気軽に立ち寄って下さったりと、地域の方々ともかかわりもちつつゆったりとした環境のもと生活して頂けるように努めています。又、ホーム周辺や広い中庭へは自由に出入り可能であり開放的に過ごしていただいております。利用者様個々に応じた支援ができる様、日々のコミュニケーションを通しその方のニーズに応じた対応ができるよう利用者様との時間を共有し一瞬一瞬を大切に支援させて頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouvoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	ennjilyou
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの目が届く所へ掲示し、理念を常に確認できるようにしている。又、理念を念頭に置き実践につながるよう意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への行事に参加したり、ホームでの行事等への参加して頂いたりとそれ以外にも日頃から意識し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は活かせていない今後地域に向けて活かす必要あり。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告等行い、情報交換や意見を聞きサービス向上に努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡をとり協力関係を築くよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠など行わず環境面・身体面での拘束につながらないよう十分に注意しケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について自身で学習や研修を通じて正しい知識を学び、気持ちにゆとりをもち困難な事は抱え込まず職員で話し合い虐待に該当する行為のないよう注意防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ場所はあるがそれを活用し支援までにはつながっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	学ぶ機会はあるが、それらを活用した支援までできていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見などは運営に反映されているが、外部へ表せれる機会は設けられていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話をする場を設け、意見等反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績を把握し、反映されている。また職場環境や条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修に参加し、日々働きながらトレーニング出来るように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人単位で関係作りや勉強会が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が抱えている思いや意向を傾聴し、丁寧な対応を心掛け信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりお話をお聞きし御家族の抱えている思いや不安、意向に対し対応し安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方に応じた支援であるか見極めた上で支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者という立場を前に出すのではなく、同じ目線又は沢山の事を学ばせて頂いている気持ちを持ち、利用者様には出来る事はつづけて頂けるよう共に支えあい過ごせる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報の共有や意向を聞きながら協力を得て本人様のへの支援が御家族様職員とご一緒にできる様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の今までの交友関係をホームに來られてからも出来るだけ変わらないお付き合いができる様、可能な範囲で面会等のお手伝いをさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立やトラブルのないように利用者様個々の性格や個性を知り利用者様同士での解決が困難な場合など必要時に間に入り緩和したりし互いに生活する同士自然と気遣いあって頂けるような空気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の相談に対しても必要に応じてフォロー支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向や希望は把握し対応している、日々の関わりから見えて来るもの大切に検討している又自己判断困難な場合はその方の立場になり判断している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話しを伺ったり情報提供書等からも情報を照らし合わせ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションを通じたり記録や他スタッフとの情報交換を行い現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、関係者との話し合いを行い意見を反映した介護計画の作成に可能な範囲で作成しているが、すべての方へ完全にはいえない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき等に対しては記録だけでなくその時々や、業務の間をみて職員同士情報の共有や意見交換を行い介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じたニーズに対応ができる様固定観念を捨て柔軟な気持ちで対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向の元かかりつけ医を選択して頂き、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療が受けれる様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時情報交換に努め、きずきや疑問に感じる点については相談し利用者様が適切な受診を受けて頂けるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そういった場合に備えた関係づくりはできていないが、情報交換等には努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での出来る事を十分に説明し本人・家族の方針を共有し、かかりつけ医の協力も得ながら他職種連携で支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会も法人単位で定期的に行ったり、日々緊急時マニュアル等に職員個々に目を通し理解に努め実践時落ち着いた行動ができる様実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員がみにつけている。地域との協力体制は完全ではない為今後の課題となる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者との空間と区別を行い個人の一人に慣れる空間を設け、共同生活の中にも個々にプライバシーを保持できるよう、共同で使用する箇所に対しては声掛けに十分配慮しや目隠しになるカーテンなどを設置している。 (トイレ・入浴・居室)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定権は本人様に決めてもらえるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせたその時その時の対応を行っており、職員が利用者様の生活リズムに沿って行動できる様尊重した介護に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時は本人の希望を聞きカット利用される、お化粧等したいときにしていただきその方らしい整容整髪ですごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを利用者さんと考えたり参加できる方は調理作業や盛り付け、配膳かたづけなどを自発的にお手伝いして下さり共に行動している。食事が楽しい時間になるように心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての方に対しての栄養バランスや水分摂取量に注意したり、個別にも病状等により異なる食事水分摂取量の配慮に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け行い毎食後口腔ケアをしていただいている。又口臭や口腔内トラブルがないかも定期的に確認し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し本人で困難な所のみお手伝いをさせて頂く。最後まで自分の力で排泄できる様、過剰な介助にならない様きをつけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や運動を通じて腸の動きを刺激し自然な排便を促されるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望のタイミングで曜日や日にちを決めることなく、入りたいときに入って頂く。又、入浴のお誘いも同意のもと入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の好きな時に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルにまとめいつでも確認できるようにしている。また薬の効能副作用等も理解し内服後の状態変化にも十分注意をはらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や外への散歩、外出その方その方の得意とされる趣味裁縫などをして気分転換や余暇の充実をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は自由にいただいている。又希望を聞きながら普段と異なる所へ出掛けたり、家族や地域の協力を得れる時はお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方に対しては所持されておられ、購入したいものがあれば希望をお聞きし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は使用して頂いたり対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔保持に努めている。また室内の環境整備へも配慮し四季の花を活けたり、家庭らしい落ち着いてすごせる空気感を大切にしている。又湿度温度共に適温で過ごしていただけるよう随時確認している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の位置や椅子の向き一つに対しても共同空間の中で、一息つける個人のスペースの確保や他者と関われる居場所作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物をお部屋に置いたり、その方その方が居心地の良く過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力を見極め、出来る事はしていただきながら安全に自立した生活が送れるように工夫している。		